

平成30年度事業報告書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

公益財団法人 全国青少年教化協議会

事業報告目次

I 教化事業（公益目的事業1）

- 1 青少年健全育成推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1 ～ P. 5
- 2 公益活動推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5 ～ P. 7
- 3 臨床仏教研究所運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7 ～ P. 11
- 4 出版事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 11～P. 12

II 表彰事業（公益目的事業2）・・・・・・・・ P. 12～P. 13

III 災害支援事業（公益目的事業3）・・・・・・・・ P. 13～P. 14

IV 管理・・・・・・・・ P. 14

事業報告付属明細書・・・・・・・・ P. 15

平成30年度事業報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

I 教化事業（公益目的事業1）

仏教精神に基づき青少幼年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図る事業

1 青少年健全育成推進事業

(1) 仏教子ども会活動の推進事業

①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

②成道会全国こども大会の開催推進

平成30年12月8日前後の日曜日を中心に全国約50会場で開催した。

※参加者＝約10,000名（うち児童約6,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話等）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）等多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル（読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社からの助成品）を送付、各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社

③「コミュニケーション・スキルアップ」小冊子の配布

子どもたちのコミュニケーションを円滑に進めいじめや自死等の防止に資するため「コミュニケーション・スキルアップ」冊子を要請に応じて必要部数配布した。

(2) 青少年教化研修会等の開催事業

①平成30年度指導者研修会「心が成長するとはどういうことか」

※日時＝平成30年10月27日（土）

※会場＝東京都中央区・築地本願寺第一伝道会館「振風道場」

※講師＝田中 哲（東京都立小児総合医療センター副院長）

※目的＝「障がい」という名の「その子らしさ」がある。指導者として、さまざまな「その子らしさ」を迎え入れ関係性を築いてゆくために大切なのはどのようなことかを考えるため、子どもたちの発達と障害について学んだ。

(3) 青少幼年支援ネットワーク拡充事業

① 青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO、公益法人等との活動連携

1) 青少幼年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校等、青少年教化活動を行っている寺院の活動状況について聞き取り調査をした。

2) 青少幼年を対象にした活動及び研究に関する情報収集

青少年問題に関する情報を広く収集するとともに、他団体が主催する青少年関係の研修会等にも参加し、その活動内容を把握した。又、加盟教団等の不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集を行った。

3) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

青少年に関する活動を行っている仏教団体、仏教系大学の児童研究会等と連絡を取り、情報交換を行い、連携事業の展開に向けて検討を行った。

4) 子ども支援系NPO・公益法人・学会等との情報交換及び活動の連携

チャイルドライン支援センター、オレンジリボン、全国フリースクール協議会、いのちの電話、全国社会福祉協議会、日本仏教教育学会日本精神衛生学会、日本電話相談学、日本虐待防止学会など、青少年の健全育成や子育て支援について活動を行っているNPO、公益法人、学会等との情報交換を促進し、活動の連携を行った。

② 文部科学省、厚生労働省、他行政機関との子ども・若者の支援のあり方についての協議・連携

1) 文部科学省いじめ防止対策推進室との協議・連携

昨今深刻化している青少年のSNSを通じたいじめの深刻化に関して、文部科学省いじめ防止対策推進室と情報交換を行い、子どもたちの現状を把握するとともに、いじめ防止及び緊急対応に関する施策の推進を依頼した。

2) 厚生労働省自殺対策推進室との協議・連携

子どもや若者をはじめとする若年層の自殺者数が高止まりを続ける中、自死予防活動等に関する協議を厚生労働省自殺対策推進室と行い、今後の施策についての協議と民間活動の支援について依頼を行った。特に SNS を巡るいじめや自殺等に関する対策について議論し、相談体制についてのガイドライン「自殺対策における SNS 相談事業ガイドライン」作成に協力した。

3) 都道府県市町村社会福祉協議会等との協議・連携

岡山市社会福祉協議会、大洲市社会福祉協議会、西予市社会福祉協議会等と被災下における子どもの心のケアのあり方や過疎地域での支援のあり方について協議を行い協働して研修会を開催した。

③ 府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

1) 活動協賛

・大阪青少年教化協議会が主催する「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛した。

※公募期間＝平成30年12月～31年2月

※応募総数＝約500点

※選考委員＝久保田 聖淳氏他

※入 賞＝最優秀賞他13点

※主 催＝大阪青少年教化協議会

※後 援＝大阪市仏教会／全国青少年教化協議会 他

・第3回「こころの絵本大賞」の後援

公益財団法人 仏教伝道協会が主催する「こころの絵本大賞」を後援した。

※テーマ＝家族 友だち 勇気 命 思いやり 愛情

※主 催＝公益財団法人 仏教伝道協会

※協 賛＝鈴木出版株式会社

※後 援＝毎日新聞社／日本仏教保育協会／全国青少年教化協議会

- ・もろはしせいこう「超大型紙芝居の世界」の後援
- ※日 時=平成30年9月10日(月)
- ※会 場=あうるすぽっと(東京都豊島区立舞台芸術交流センター)
- ※主 催=諸橋精光と超大型紙芝居の会・NPO法人ライフデザイン
- ※協 賛=鈴木出版株式会社
- ※後 援=読売新聞東京本社/大本山護国寺/全国青少年教化協議会 他

- ・「花まつりスイーツコンテスト」の協賛
- 曹洞宗が主催する「花まつりスイーツコンテスト」に協賛した。
- ※募集作品=A. 甘茶を使ったオリジナルスイーツ
B. 花まつりにふさわしいオリジナルスイーツ
- ※審査員=和菓子の専門家2名・洋菓子の専門家2名・飯島邦雄氏(東京グランドホテル総料理長)
- ※特別協賛=東京グランドホテル
- ※協 賛=全日本仏教会/仏教伝道協会/全国青少年教化協議会
- ※後 援=全国菓子工業組合連合会/全国和菓子協会/全国洋菓子協会連合会 他

2) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

- 協力企業の株式会社よみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、役職員等が出仕し、同聖地公園にて法要を執り行った。
- ※日 時=平成30年5月23日(水)
- ※会 場=よみうりランド聖地公園(東京都稲城市)

④加盟教団等との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。又、必要に応じて資料の提供や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

1) 「現代教化法研究協議会」(加盟教団教化部門代表者会議)の開催

加盟教団等に広く呼びかけ、これまでの教化活動を振り返りながら現代的課題に即した教化を推進していくべく会議を開催した。各宗派からの教化事例発表を受けて、少子高齢化や寺院の檀家離れ等、諸相のなかで現代に即した教化活動の方法について議論を深めた。

※平成30年6月18日(月)を予定していたが、大阪北部地震のため中止となったため、今年度は1回のみの開催となった。

第8回

- ※日 時=平成31年1月21日(月)
- ※会 場=明照会館4F第二会議室
- ※報 告=浄土宗

2) 講師派遣

- 平成30年4月8日(日) チャイルドライン広島オンライン相談員研修会(広島市)
- 平成30年4月15日(日) チャイルドライン富田林オンライン相談員研修会(富田林市)

平成30年7月23日(月) (公社) 日本仏教保育協会夏期仏教保育講習会(東京都)
 平成30年7月28日(土)・29日(日) 日本看護診断学会年次大会(東京都)
 平成30年8月19日(日) チャイルドライン栃木オンライン相談員研修会(栃木市)
 平成30年8月29日(水) 浄土宗北海道ブロック教化高等講習会(函館市)
 平成30年10月6日(土) 東洋英和女学院大学死生学研究所シンポジウム(東京都)
 平成30年10月7日(日) チャイルドライン岡山オンライン相談員研修会(岡山市)
 平成30年10月10日(水) (公社) 全日本仏教婦人連盟平成30年度大会(東京都)
 平成30年10月11日(木) 真言宗智山派布教師講習会(東京都)
 平成30年10月11日(木) 上智大学グリーンケア研究所公開講座(東京都)
 平成30年10月25日(木) (社福) 武尊会介護職員等研修会(東京都)
 平成30年11月17日(土)・18日(日) 日本電話相談学会年次大会(東京都)
 平成31年1月16日(水) (公財) 浄土宗ともいき財団電話相談講習会(東京都)
 平成31年1月17日(木)・18日(金) (独法) 国立青少年教育振興機構全国青少年相談研修会(東京都)
 平成31年2月2日(土) 第11回東京都子供の心を考える都民フォーラム(東京都)
 平成31年2月6日(水) 曹洞宗布教師養成講座(東京都)

3) 加盟教団・関係諸団体・行政主催式典及び学会・会議等への参加及び協力

平成30年6月17日(日) 東京慈恵会医科大学医療安全講習会(東京都)
 平成30年8月4日(土) 比叡山宗教サミット(大津市)
 平成30年8月4日(土) (公財) 国際宗教研究所顧問会議(東京都)
 平成30年9月3日(月) 日蓮宗菅野日彰猊下管長就任式典(東京都)
 平成30年10月8日(祝) 上智大学グリーンケア研究所創立10周年式典(大阪市)
 平成30年10月27日(土) 日本仏教教育学会学術大会・理事会(東京都)
 平成30年12月1日(土)・2日(日) 日本虐待防止学会学術大会(岡山市)
 平成30年12月22日(土) ダルマチャクラスクール・クリニック理事会(サールナート)
 平成31年1月17日(木) (公社) 日本仏教保育協会新年懇親会(東京都)
 平成31年1月18日(金) 日本弁護士連合会子どもの権利委員会各界懇談会(東京都)
 平成31年2月8日(金) 世界仏教徒青年会議祝賀会(東京都)
 平成31年2月12日(火) 東京慈恵会医科大学医療安全講習会(東京都)
 平成31年2月14日(木) (公財) 仏教伝道協会沼田前会長3回忌(東京都)
 平成31年2月16日(土)・17日(日) 日本精神衛生学会年次大会・理事会総会(東京都)
 平成31年3月8日(金) 花園大学禅学研究所企画会議(京都府)
 平成31年3月11日(月) 日本弁護士連合会子どもの権利委員会各界懇談会(東京都)

(4) 教化活動広報事業

① インターネットによる情報収集及び発信

公式ホームページやブログ、フェイスブック等各種ソーシャルメディアを利用して青少幼年問題や活動者に関する情報を収集し、全青協の活動情報と合わせて情報の発信を行った。

② 「We b 現代名僧墨蹟展」の運営

伝統仏教各宗派管長、大本山貫首をはじめとする高僧・名僧、又、茶道家元ら文化人より寄せられた書画作品

をホームページ上に掲載し、広く一般の人々が心の安らぎや豊かさを感じることができるよう試みた。

③『現代寺院教化活動（仮題）』（全青協ブックレット3）の刊行準備

ぴっばら「教界散歩」に毎号連載された寺院の今日的な教化活動を紹介するべくブックレットの刊行準備を行った。

2 公益活動推進事業

(1) てらネットEN関連事業の実施

①不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

「寺子屋ふぁみりあ～ひきこもり状態にある当事者の家族（親）のためのセミナー～」

全国に100万人いるともいわれるひきこもり当事者。全青協はこれまでひきこもりや不登校の問題に継続的に取り組んできたが、平成22年度からは、ひきこもり当事者の家族（親）に向けてのセミナーを実施している。セミナーでは現場経験が豊富で専門的な知識を有する講師を招いての講義、又、仏教的な体験を通じて精神的な安定が得られるように、読経や法話、慈悲の瞑想などを行っている。そして参加者同士によるグループトークの時間を設け、相互の心情に共感することで各自の孤立感を軽減している。今年度も引き続き、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会との共催により平成29年5月より月1回の頻度で全11回開催した。

※会場＝築地本願寺東京仏教学院（東京都中央区）

第1回：平成30年5月10日（木）

○演 題 「依存と自立Part-2」

○講 師 田中 剛（精神保健福祉士）

第2回：平成30年6月7日（木）

○演 題 「語り場ふぁみりあPart-1」

○講 師 講 師 神 仁（当会主幹）

第3回：平成30年7月5日（木）

○特別プログラム「歌で豊かな1日を」

○講 師 吉水 知草・増田 浩子（当会スタッフ）

○コーディネーター 神 仁（当会主幹）

第4回：平成30年9月4日（火）※台風のため、中止

○特別プログラム「建長寺秋の遠足（坐禅体験他）」

第5回：平成30年10月4日（木）

○演 題 「語り場ふぁみりあPart-2」

○講 師 講 師 神 仁（当会主幹）

第6回：平成30年11月1日（木）

○演 題 「「こうりたい」という声を聴く」

○講 師 長井 岳（想像集団440HZ）

第7回：平成30年12月6日（木）

○演 題 「お坊さんたちと語る会」

○講 師 臨床仏教師・浄土真宗本願寺派僧侶

第8回：平成31年1月10日（木）

○演 題 「修正会法要」

- 講 師 本願寺僧侶有志
第9回：平成31年2月7日（木）
○演 題「自分の時間軸で生きるということ」
○講 師 全青協スタッフ
第10回：平成31年3月7日（木）
○演 題「におい袋を作ろう&懇親会」
○講 師 飯島 聡子（臨床仏教師）

②「寺子屋ふぁみりあ」のホームページの運営

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」の講演内容等を広く一般に発信し、この問題についての啓発を図るとともに、参加者以外の同じ問題を抱える家族（親）が認識を共有し、問題解決・軽減の一助となることを期してホームページを運営した。

③就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして就労支援活動を行った。

※日 時＝平成30年4月より週1日～2日程度

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝機関誌『ぴっぱら』の発送作業等の軽度な作業及びPCを使った事務作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力及び作業スキルの向上を目指した。

④相談窓口の設置・運営

- 1) 不登校やひきこもり、自死念慮等、青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談・インターネット相談窓口において、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。
- 2) こころの相談室の運営
全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患等の悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合等に随時面接を行った。
- 3) 貧困母子家庭児童および自死遺児支援プログラムに関する調査
子どもを持つ家庭の貧困率上昇や近年の自殺者の増加傾向に伴い、貧困家庭児童及び自死遺児支援プログラムに関して継続的に調査を行った。特に被災地における現状の把握に務め、あおぞら奨学基金をはじめとする支援活動につなげた。又、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障害他、青少年や親等が直面する多様な問題に対して仏教情操教育をベースに当事者をサポートする「仏教子ども家庭支援センター（仮称）」の開設に向けて調査を行った。

⑤浄土宗ともいき財団「心といのちの電話相談室」開設事業協力

浄土宗ともいき財団が「心といのちの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して協力を行った。

※開設日時＝平成29年4月2日（月）～（毎週月・金曜日午前10時～午後4時）

※会 場＝東京都港区・明照会館内

⑥てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院等においては当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりに関する基礎的な知識や対処法等を掲載した小冊子を、加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

(2) 「ぴっばら国際児童基金」の運営

①奨学金の支給

インドのスラムや路上で暮らす子どもたち、山岳部の遊牧民の子どもたち等、経済的な貧困状況のために教育を受けることが出来ない子どもたちをチャイルド・サポーター（里親）及び会員等からの支援金を基にして奨学金を支給した。

②無料小学校の運営

学用品・教職員の給与等をはじめ、貧困層の子どもたちを対象とした無料小学校の運営に必要な運営費全般について支援を行った。平成30年度はコンピューター・ルームおよび保護者用施設の充実を図った。

③無料診療所の運営

貧困家庭母子等を対象としたホメオパシー（免疫療法）を中心とした無料診療所を運営し、医薬品の提供および栄養補給等の支援プログラムを推進した。

④貧困家庭の母親を対象とした就労支援

貧困家庭の母親を対象に、職に就くための語学学習、編み物やクラフト製作等の就労支援を行った。
(公益社団法人全日本仏教婦人連盟との協働事業)

3 臨床仏教研究所運営事業

(1) 臨床仏教師養成プログラム

—仏教師は現代社会のなかで人びとのこころにどのように寄り添うことができるのか—

平成25年度から現代社会の生老病死にまつわるさまざまな苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する臨床仏教師を養成するプログラム《座学（公開講座）⇒ワークショップ⇒実践研修（OJT）》を実施している。

①臨床仏教師養成プログラム

1) 関西第1期 ワークショップ課程（第4期臨床仏教公開講座）開催

座学（公開講座）で学んだ生老病死の「今」を踏まえたうえで、現場において相手のこころに深く寄り添い、又、自分自身が燃え尽きてしまうことのないようにケアのあり方を理解し、活動のベースとなる技法を基礎から体系的に学ぶワークショップを、平成30年5月より原則隔週にて全10回の連続講座を開催した。

※会場＝キャンパスプラザ京都（京都府京都市）

第1講：平成30年5月8日（火）

○演 題 「仏教カウンセリング・傾聴法」

○講 師 丹治 光治（花園大学学長）

神 仁 (臨床仏教研究所上席研究員)

第2講：平成30年5月22日 (火)

○演 題 「生と死のプロセスワーク・マインドフルネス瞑想」

○講 師 神 仁 (臨床仏教研究所上席研究員)

第3講：平成30年6月5日 (火)

○演 題 「内観法」

○講 師 千石 真理 (臨床仏教研究所特任研究員)

第4講：平成30年6月19日 (火)

○演 題 「ターミナルケア&セルフケア・チームケア」

○講 師 大河内 大博 (臨床仏教研究所特任研究員)

第5講：平成30年7月3日 (火)

○演 題 「インターフェイス・チャプレンシー」

○講 師 高木 慶子 (上智大学グリーンケア研究所特任所長・臨仏研アドヴァイザー)

第6講：平成30年7月17日 (火)

○演 題 「グリーンケア」

○講 師 西岡 秀爾 (花園大学准教授)

第7講：平成30年8月28日 (火)

○演 題 「苦集滅道 (四諦) ワークショップ」

○講 師 ジョナサン・ワッツ (臨床仏教研究所研究員)

第8講：平成30年9月11日 (火)

○演 題 「いのちのケア&スピリチュアルケアー方法論と実践」

○講 師 窪寺 俊之 (聖学院大学大学院客員教授・臨仏研アドヴァイザー)

第9講：平成30年9月25日 (火)

○演 題 「コミュニケーション・トレーニング&ロールプレイング①」

○講 師 吉水 岳彦 (臨床仏教研究所研究員)

第10講：平成30年10月9日 (火)

○演 題 「トラウマケア&ロールプレイング②」

○講 師 神 仁 (臨床仏教研究所上席研究員) ※以上、敬称略

※参加者数=45名

※花園大学協力事業

②第5期 座学 (臨床仏教公開講座) 開催

「自死防止」「ターミナルケア」「青少年の問題行動・ひきこもり」「過疎化・孤立化」「災害と仏教」等、現代社会における臨床的テーマを取り上げ、10月より原則隔週にて全10回の連続公開講座を開催した。

※会 場=東京大学仏教青年会会館 (東京都文京区)

第1講：平成30年10月24日 (水)

○演題 「“宗教”と“医療”のはざままで 一家族の看取りから学んだもの」

○講師 田中 貞雅 (医療法人普門院診療所・僧医)

第2講：平成30年11月14日 (水)

○演題 「路上生活者支援と子どもの貧困 一仏教的な支縁のあり方」

○講師 吉水 岳彦 (社会慈業委員会ひとさじの会)

第3講：平成30年11月28日（水）

○演題 「地域社会での看取りと支援 ー専門職連携のあり方ー」

○講師 楠 恭信（臨床仏教師・福島県立医科大学会津医療センター）

第4講：平成30年12月12日（水）

○演題 「憲法・原発・平和 ー煩惱具足の愚かさー」

○講師 山崎 龍明（武蔵野大学名誉教授・WCRP平和研究所所長）

第5講：平成30年12月26日（水）

○演題 「災害支援と足湯活動 ー被災者の足を洗うことの意味ー」

○講師 辻 雅榮（高野山足湯隊）

第6講：平成31年1月9日（水）

○演題 「寄り添う看護ケア ー患者さんやご家族に求められる真のケアとは？ー」

○講師 藤澤 雅子（淑徳大学短期大学部教授）

第7講：平成31年1月23日（水）

○演題 「全人的な医療とは ーチームケアについて考えるー」

○講師 下山 直人（東京慈恵会医科大学緩和ケア診療部長）

第8講：平成31年2月13日（水）

○演題 「オウム真理教と仏教 ー今、仏教者に求められることー」

○講師 島藺 進（上智大学グリーンケア研究所所長）

第9講：平成31年2月27日（水）

○演題 「仏教者の社会貢献 ーエンゲイジド・ブディズムを礎としてー」

○講師 蓑輪 顕量（東京大学大学院教授）

第10講：平成31年3月13日（水）

○演題 「子どものこころに寄り添う ーチャイルドラインから見える子どもたちの諸相ー」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

※参加者数＝75名

（2）臨床仏教師フォローアップ研修の開催

日々の臨床活動を振り返り、自身を省察することで自己の信仰の有り様を深め、ケア対象者への専門的関わりの妥当性を判断する力、バーンアウトしないためのセルフケアを継続して行う力を養った。

※会 場＝京都府京都市・芝蘭会館別館

※講 師＝千石 真理氏（臨床仏教研究所特任研究員）

神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

第2回：平成31年2月4日（月）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講 師＝窪寺 俊之（聖学院大学大学院客員教授・臨仏研アドヴァイザー）

神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

（3）平成30年度臨床仏教研究所公開研究会の開催

国内外の教育・福祉・医療等の臨床現場において活動をしている臨床仏教師の活動内容と事例、課題について知り、今後の日本における臨床仏教のあり方について議論を深め情報を共有した。

①第1回

※日 時=平成30年5月17日(木)

※会 場=東京都港区・仏教伝道センタービル

※主 催=全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

※内 容=現代アメリカ社会における仏教チャプレンの活動内容と課題についての報告及び今後の日本における仏教チャプレンのあり方について議論を深めた

※基調講演=古村 栄伸(ペンシルバニア大学附属病院チャプレン)

※指定討論者=神 仁(臨床仏教研究所上席研究員)

※コメンテーター=大井 玄(東京大学名誉教授・臨仏研アドバイザー)

※参加者数=34名

②第2回

※日 時=平成31年2月5日(水)

※会 場=東京都港区・仏教伝道センタービル

※主 催=全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

※内 容=臨床仏教師活動発表・指定討論・パネルディスカッション 等

※発題=内山美由紀・星 光照・楠 恭信(臨床仏教師3名)

※指定討論者=神 仁(臨床仏教研究所上席研究員)

※参加者数=26名

(4) 臨床仏教師(仏教チャプレン)資格認定制度に関する調査

今年度も引き続き、教育・福祉・医療等の臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教師の資格認定制度運営に関する国内外での調査・準備を進めた。主要な病院等を訪問し、情報交換するとともに、臨床仏教師の活動の場を開拓することに努めた。

平成30年4月9日(月) 花園大学(京都市)

平成30年4月16日(月) 医療法人社団あと会(広島市)

平成30年6月28日(木) さわやか岩槻館(さいたま市)

平成30年7月31日(火) 普門院診療所(益子町)

平成30年10月1日(月) 倉敷市社会福祉協議会(倉敷市)

平成30年10月2日(火) 花園大学(京都市)

平成30年10月2日(火) 特別養護老人ホームうたの(京都市)

平成30年10月30日(火) 大洲市社会福祉協議会(倉敷市)

平成30年11月12日(月) 川西市市立川西病院(川西市)

平成30年11月29日(木) 特別養護老人ホームうたの(京都市)

平成30年11月30日(金) 社会福祉法人健光園(京都市)

平成31年1月21日(月) 大洲市社会福祉協議会(大洲市)

平成31年1月22日(火) 倉敷市社会福祉協議会(倉敷市)

平成31年2月20日(水) 社会福祉法人幸風会(倉敷市)

平成31年2月21日(木) 倉敷市社会福祉協議会(倉敷市)

(5) 講師派遣

教団や団体等の要請に応じて、臨床をテーマとした講座及びワークショップの開催に際して、研究所スタッフを講師として派遣した。

(6) 「いのちのカフェ」の開催

がん患者・ご家族・ご遺族・医療スタッフを対象に、生と死にまつわる苦しみを見つめ分かち合うためのオープンカフェを開催した。

※日 時＝平成30年4月より原則隔週金曜日 16:00～18:00

※会 場＝東京慈恵会医科大学付属病院本院腫瘍センターサロン（東京都港区）

(7) 臨床仏教研究所 公式ホームページ等による情報発信

臨床仏教研究所のホームページ、ブログ・フェイスブック等各種ソーシャルメディアと連動して講座内容、調査報告、プログラム運営等に関して情報の発信を行った。

4 出版事業

(1) 機関誌『ぴっばら』の発行状況

① 月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	平均発行部数
5-6	5,200	7-8	8,500	9-10	6,000	11-12	5,400	1-2	6,100	3-4	6,100	

② 『ぴっばら』「特集」テーマ一覧

月	テ ー マ
5-6	赤ちゃんがほしい —— 「妊活」をめぐる葛藤
7-8	いのちに寄り添う音楽 —— 「音楽サナトロジー」の可能性
9-10	子どもたちの今と向き合う —— 弁護士の活動から
11-12	社会的養護を巣立った子どもの貧困と支援 —— 「アフターケア相談所ゆずりは」の活動を通じて
1-2	SNSでつながりたい —— 子どもを「ネットの闇」からどう守るか
3-4	長期化する「ひきこもり」 —— 「8050問題」への処方箋とは

(2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少年向けの各種教材を発行。花まつり用ぬりえ、シール、風船、ポスター及び甘茶クッキー等を頒布した。

①教材等の製作

A) 甘茶クッキー

甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がい者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し頒布した。

②書籍・教材の調査及び研究

今後の出版事業につないでいくために、青少年関係の出版物並びに教材等を調査・研究した。

③出版物・教材の広報活動

出版物は会員以外への販路を開拓するべく、頒布活動に力を入れ、教材は成道会、お盆、花まつりをはじめとして、あらゆる機会を利用して、DM、チラシ等で広報した。

II 表彰事業（公益目的事業2）

青少幼年の健全育成に尽力し、社会の情操教育振興に功績のあった個人及び団体を表彰する事業

(1) 『正力松太郎賞』の実施

仏教精神に基づき、長年にわたって青少幼年の宗教情操の育成に尽力して顕著な実績をあげ、今後も活躍が期待される個人・団体を表彰した。

①「第42回正力松太郎賞」の表彰

※受賞者

(本賞)

○田端 義宏

[日蓮宗永昌寺住職／青森県西津軽郡]

○小原 智司

[曹洞宗西光寺住職／愛知県豊橋市]

(奨励賞)

○東海林 良昌

[浄土宗雲上寺副住職／宮城県塩竈市]

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド

※表彰式＝平成30年5月31日（木）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

②「第43回正力松太郎賞」の公募と受賞者の決定

平成30年9月公募開始、同年12月15日締め切り

※選考会日時＝平成31年3月12日（火）

※選考会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※受賞者

(本賞)

○徳応寺日曜学校

[代表＝浄土真宗本願寺派徳応寺住職・戸崎 文昭 氏／山口県下関市]

○藤 大慶

[浄土真宗本願寺派西福寺前任住職／京都府綾部市]

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド

※表彰式＝平成31年5月30日（木）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

(2) 優秀表彰の実施

情操教育を目的とした書道・絵画等を通じ優秀な成績をおさめた児童・生徒への表彰、又、青少幼年の健全育成に貢献した個人及び団体を表彰した。

- ・曹洞宗主催「第5回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・大正大学書道研究部主催「第67回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・炎天寺一茶まつり委員会主催「平成30年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

Ⅲ 災害支援事業（公益目的事業3）

国内外の自然災害に際する緊急支援及び復興支援を行う事業

(1) 東日本大震災復興支援事業

石巻被災地支援センター等を拠点として、被災地の方々、特に子どもたちや高齢者の方々のニーズに応えるべく、精神的なケアにつながる支援を主とした活動を行った。

①孤独死・自死を防止するためのこころのケアを行う人員の派遣

こころのケアについて講習を受けたボランティアスタッフを組織し、定期的に復興支援住宅等において茶話会等を開催した。

②巡回子ども会の実施

被災地の応急仮設住宅、幼稚園・保育園、学童保育を定期的に訪問し、子ども会を実施することによって被災した子どもたちの継続的なこころのケアに努めた。

③「あおぞら奨学基金」の運営

平成24年度に一般財団法人杉浦ブラムチャリヤ、公益社団法人全日本仏教婦人連盟と協働して「あおぞら奨学基金」を設立。東日本大震災で公的な支援の狭間にあって就学困難な状況にある高校生のための給付型奨学金支給事業を基金事務局として運営を行った。今年度は宮城県・岩手県・福島県の公立高校を中心に364名に月々1万円の奨学金を給付し、それぞれの生徒が継続的かつ安定した就学環境を得ることに努めた。

(2) 国内外緊急支援事業

平成30年6月に発生した大阪北部地震をはじめ、7月に発生した西日本における豪雨被害等における被災者支援として、「災害時におけるトラウマ・グリーフケア講座」を開催しスタッフを育成した上、被災した方々、特に被災児童のトラウマケアを中心としたこころのケアを中心に支援活動を行った。

① 災害時におけるトラウマ・グリーフケア講座の開催（全3回）※中央共同募金助成事業

- ・ 第一回講座：岡山県倉敷市
日 時：10月1日（月）13：30～15：00
会 場：行顔院
参加者：約30名
- ・ 第二回講座：愛媛県松山市
日 時：10月30日（火）13：30～16：00
会 場：松山市総合コミュニティーセンター

参加者：約50名

- ・ 第三回講座：愛媛県大洲市

日時：2月23日（土）15：00～16：30

会場：大洲市福祉センター

参加者：約50名

② 仮設住宅等を巡っての巡回ハーブティーサロンの開催

愛媛県大洲市・西予市、岡山県岡山市真備町の仮設住宅、寺院、高齢者施設において週1回程度、西洋の漢方薬とも言えるハーブティー等を提供しながら、被災者の方々のこころのケアに当たった。実施にあたっては、曹洞宗青年会、真言宗御室派青年会等の協力を得た。

③ 「宮島てらこや」開催協力

例年「宮島てらこや」が開催する春・秋の寺子屋合宿に、西日本豪雨災害の被災地である広島市及び呉市在住の子どもたちを招待して1泊2日の寺子屋の体験機会を持った。被災した子どもたちのトラウマ・グリーフケアの一環。

IV 管理

(1) 組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。又、各宗派の研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。会員数は平成31年3月末日現在、797名。内訳は「会員」307名、「活動会員」253名、「賛助会員」212名、「特別賛助会員」25名（29口）。